

第3学年1組 国語科 学習指導案

実施期間 令和5年11月13日
指導者 工藤 未来

1 単元（題材）の構想 人物のせいかくを想ぞうする 「モチモチの木」

児童（生徒）の姿	人物の境遇や状況、周りの人物との関わり、語り手からの捉え方などが表れている複数の叙述を根拠とすることで、中心人物の性格を具体的に想像しようとしている。また「会話文」だけでなく、「地の文」からも豆太がどのような人物かということ想像しながら読むことができる。叙述を根拠として感じたことや考えたことを明確にして伝え合うことを通じてこれからの国語力を伸ばそうとしている。		
	〔知識及び技能〕	〔思考力、判断力、表現力等〕	〔学びに向かう力、人間性等〕
単元（題材）の目標	① 様子や行動、気持ちや性格を表す語彙の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。(1)オ	① 登場人物の気持ちや性格、情景について場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。C(1)エ ② 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。C(1)オ ③ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関連を明確にして、書き表し方を工夫すること。B(1)ウ	① 学習の見通しを持って、文章を読んで理解したことに基づいて感想を持ち、考えたことなどを伝え合おうとしている。
目標に向かうための手立て	<p>○「3つのポイント」×「子どもが主体のICT」</p> <p>【めあて】中心人物の性格や他の登場人物との関係性について子どもたちの初発の感想や疑問を取り上げながら、課題を出す。揺さぶりをかけたり、問い返しをすることによって物語をさらに深く読み取ることができる。</p> <p>【振り返り】物語文の既習事項を生かし、自分で確認しながら課題解決できるよう、ロイロノートで場面の移り変わりとともに変化していく中心人物の性格についてつかませる。</p> <p>【対話】中心人物の性格について叙述を根拠にして理由を伝え合うことを通して、互いの考えの相違に気づき、豆太の人物像をより深められるようにする。</p>		
児童の実態	前単元「サーカスのライオン」の中心人物「じんぎ」の性格や気持ちの変化を物語の起承転結に沿って捉えることができ、テストで80点以上をとれていた児童は8割だった。その他の児童は苦手意識をもっていた。また中心人物の気持ちを教科書の叙述を根拠にして発言できる児童が少ない。事前に実施したアンケートによると、「物語文を読むのは好きですか」の項目に「好き」「どちらかという好き」と回答した児童は23人だった。「中心人物の気持ちを考えることが得意ですか」の項目に「得意」「どちらかという得意」と回答した児童は12人だった。苦手意識をもっている理由としては「登場人物がたくさん出てくると頭がごちゃごちゃになるから」といったものが多かった。		

単元（題材）の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使っている。(1)オ	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。C(1)エ ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想を持っている。C(1)オ ③「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。B(1)ウ	①学習の見通しを持って、文章を読んで理解したことに基づいて感想を持ち、考えたことなどを伝え合おうとしている。

指導と評価の計画（11時間取り扱い ●本時5/11）

課題	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
豆太がどのような人物かを想ぞうし、性格分析をしよう。	1	1	【単元のめあてを確かめ、学習の見通しをもつ。】 ○初発の感想や疑問を出し、豆太の性格を考える。	【主】①発言、ノート
	2	2 3 4 5 6 7 8	【各場面ごとに中心人物の気持ちや性格を分析する。】 ○いつもの豆太の様子から豆太のおくびょうな性格を考える。 ○昼と夜での様子を比べ、豆太の性格を考える。 ○モチモチの火の灯がともる話を聞いた豆太の様子から豆太の性格を考える。 ●医者様を呼びに走る豆太の様子から性格を考える。 ○灯がともっているモチモチの木を見た豆太の様子から性格を考える。 ○じさまの言葉を聞いた後の豆太の様子から豆太の性格を考える。 ○物語全体から豆太はどんな性格かまとめる。	【知】①(1)オ 発言・ノート 【思】②C(1)エ 発言・ノート
	3	9 10 11	○斎藤隆介の他の作品を読んで、中心人物の性格分析カードを作成する。	【主】①発言・ノート

2 本時の授業計画

(1) 本時の目標

四の場面での豆太の性格を、叙述を基に考えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考 ・ICT 機器等
導入	5	1 前時の学習を振り返り、本時の課題をとらえる。	○三の場面までの豆太のせいにかくはどうでしたか？ ・おくびょう ・お調子者 ・こわがり ・あきらめがはやい。	○各場面の豆太の性格を可視化できるようにポートフォリオを掲示する。	・ロイロノート
		「豆太は見た」の場面での豆太のせいにかくを考えよう。			
展開	10	2 本場面を音読し、前場面と本場面での豆太の性格の違いで気づいたことを話し合う。	○この場面での豆太のせいにかくはどうでしたか。 ・ゆうかんだな。 ・痛くても走ってるよ。 ・おくびょうだったのにすごい。	○音読の際、豆太の行動や気持ちが表れている叙述に線を引かせる。	・ロイロノート
	10	3 なぜ本場面では豆太の新しい一面が見えたのか考えをまとめる。	○おくびょうだった豆太はどうしてゆうかんな行動ができたのだろう。 ・じさまが死ぬかもしれないほうがもっとこわかったから。 ・じさまが大好きだから。 ・じさまを助けたい。	○霜をはだして踏むイメージがわくように実際の霜の写真を掲示する。	
	15	4 叙述に基づいてじさまを助けたいという豆太の気持ちを読み取る。	○じさまを助けたい気持ちは教科書のどこに書かれていますか。 ・「ねまきのまんま。はだして。半道もあるふもとの村まで。」 ・「大すきなじさまが死んじまうほうが、もっとこわかったから。」	◎【思】②B(1)ウ 叙述に基づいて考えているか。	
終末	5	4 本時の学習を振り返り、学習場面を音読する。	○この場面では豆太はどんなせいにかくでしたか。 ・やさしい ・人のためならいくらでも動ける ・人思い	○今までの豆太の性格を振り返り、次時の学習へつなげる。	・ロイロノート